

「赤川浩爾先生を偲ぶ会」報告

M³⁶ 浅野 等

神戸大学名誉教授であられる赤川浩爾先生が昨年 12 月 8 日、肺炎のため 90 歳でご逝去されました。赤川先生とご縁のあった多くの卒業生に集まって頂き、学生時代の思い出やエピソードを語り合いたいと考え、「偲ぶ会」を下記の通り企画、開催いたしました。



開催日：2016 年 7 月 3 日（日）12:00～14:00

会 場：ポートピアホテル

赤川先生は、1946 年 9 月に京都帝国大学工学部応用物理工学科を卒業され、同年神戸経済大学に赴任されました。工学部には 1950 年 4 月に助手として赴任され、1952 年 8 月に助教授、1958 年 7 月に教授に昇任され、1988 年 3 月退官されるまで 38 年間神戸大学工学部で教鞭をとられたこととなります。1988 年 3 月は M³⁶浅野が学部卒業した年であり、講義から卒業研究まで面倒を見ていただいた最後の回生となります。

赤川先生は、大学時代、飛行機の研究・設計開発者を目指されていたとのことですが、戦後すぐということもあり、飛行機開発は日本ではできず、神戸大学赴任時には研究課題を模索されていたとのこと。その中で、大阪大学 石谷 清幹 先生に出会われ、ボイラ研究、そして気液二相流の研究に取り組まれるようになったとのこと。私が 4 年生の時には、既に石谷先生は退官されていましたが、旧石谷研とボイラ杯軟式野球大会を年 1 度開催していたので、赤川研卒業生は覚えておられると思います。

大学では、ボイラに関わる研究を進められるとともに、機械学会では気液二相流に関する研究懇話会や調査研究分科会をすすめられ、その成果は「気液二相流技術ハンドブック」として出版されるとともに、混相流学会が設立される礎となりました。

2004 年には瑞宝中綬章を受章され、2007 年 5 月 11 日には機械クラブ主催「名誉教授は語る」講演会において「機械工学科の発展と共に過ごした 40 年と気液二相流研究の楽しい思い出から」と題し、講演されました。2015 年 12 月 8 日には正四位に叙位されました。

会場は、赤川先生の退官パーティをしたポートピアホテルとし、立食形式としました。M¹回生から M³⁶回生まで、赤川研に加えて赤川研卒業生でもある坂口忠司先生の研究室の卒業生を中心に約 730 名に E-mail および往復はがきで案内を出し、76 名の方にご出席いただきました。赤川先生の奥様である赤川範子様にもご出席いただきました。既に退職され実家に戻っておられる方、勤務地が遠く、都合がつかなかった方、お年を召されており夏の外出は困難である方など、参加したいが断念せざるを得ないという方も多くおられました。坂口忠司先生、藤井照重先生に出席いただくとともに、卒業生以外としては元近畿大学の多賀正夫先生、神戸大学技官から米子高専に移られた村側博康先生、高知高専の竹島敬志先生、現在、神戸大学助教の杉本勝美先生、村川英樹先生にもご出席いただきました。

会場には、瑞宝中綬章を受章された時の顔写真と正四位の位記をかざり、先生の功績を紹介するためのプロジェクターを準備しました。

先生のご遺影を前に 1 分間の黙とうをし、先生のご経歴を紹介したのち、M²井上理文様に赤川先生の思い出と献杯のご挨拶をお願いしました。その後、立食の歓談としましたが、多賀先生、M³馬場惇様、M³黒岩俊文様、M⁴松本定喜様、M⁵村上育勇様、M⁸峰野保様、M⁹岩元勇様、M⁹永島忠男様と順に思い出のスピーチをしていただきました。

赤川先生は、お酒は飲まれませんでした。研究の話をするのは好きな方だったこと、過去の論文を見ると現在でも難しそうな大掛かりな実験をされており、当時学生で研究を遂行されてこられた方は結構苦勞されていたろうと推察されることから、過去の論文の実験装置や数値解析のフローチャートをスライドで映写し、その論文で連名となっている方を指名し、思い出を語っていただきました。「当時は出来ない学生で、すっかりそのことは忘れてしまい、・・・」とスピーチを始められる方もおられましたが、話の最後の方になると実験装置を見て思い出されたのか、スピーチ後もスライドを感慨深く見ておられたのは印象的でした。学舎が六甲台に

移された当初には、ボイラ水循環の実験として、高さ 6m 強のループを組み上げ、加熱部は耐熱煉瓦積みの燃焼炉とするなど、かなり無茶な実験をされており、先生の情熱だけでなく、それに応える学生の努力もあったのだと思います。

研究の話をしていると、2 時間という時間は瞬く間に過ぎ、最後には赤川範子夫人のご挨拶を頂き、偲ぶ会を終えました。

赤川先生の過去の論文を改めて見直し、赤川先生が気液二相流をただ物理現象として研究されているのではなく、常にボイラ研究に向いておられ、実用を意識されていたことを改めて認識することができ、私にとっても非常によい勉強になりました。改めて赤川浩爾先生のご冥福をお祈り申し上げ、心より哀悼の意を表したいと思います。偲ぶ会にお付き合いいただいた赤川範子様、そしてご参加・ご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。



「赤川浩爾先生を偲ぶ会」集合写真